

## 誕生おめでとう

赤ちゃんのなまえ 親の氏名 行政区  
 田邊優希ちゃん 直孝・菜菜美 関 沢  
 すくすくと元気に育ってね

## 結婚おめでとう

氏名 行政区  
 佐藤 明宏 関根・松塚  
 下浦 瑛美 川 俣 町  
 いつまでもお幸せに

## おくやみ

氏名	年齢	行政区
荒 喜 雄	85	飯 樋 町
菅 野 チ イ	91	比 叢
大 澤 ヒ デ	77	草 野
但 野 里 子	62	草 野
伊 東 カ ツ	85	関 沢
大 渡 喜 平	86	深 谷
佐 藤 徳 壽	84	上 飯 樋

ご冥福をお祈り申し上げます

(11月21日から12月20日までに届け出のあったものを掲載)  
 ※この欄に掲載を希望しない方は、届け出のときに住民係へ申し出てください。

### ひとのうごき

(平成21年12月1日現在)

人口	今月 (前月比)	昨年同期
男	3106人 (+1人)	3119人
女	3099人 (+4人)	3123人
計	6205人 (+5人)	6242人
世帯数	1721戸 (+1戸)	1691戸

◆◆ 11月1日～30日までの人口動態 ◆◆  
 転入 16人 転出 5人  
 出生 3人 死亡 9人

(平成17年国勢調査に基づき増減された現住人口)

※お詫びと訂正  
 広報12月号において誤りがありました。お詫びして訂正いたします。  
 P23 結婚おめでとう (誤) 末永 瑞穂 (深谷)  
 (正) 末永 瑞恵 (深谷)

# “まていな連携”を目指して



▲協定書に調印する菅野村長と阿部学長 (右)

12/14  
**福島学院大学と相互友好協力協定を締結**

村は、地域産業・文化の振興や人的交流などの連携協力を目的として、福島学院大学と相互友好協力協定を締結しました。村役場で行われた調印式では、菅野典雄村長と阿部正学長が協定書に調印しました。

調印後、菅野村長は「大学の持つ素晴らしい力を吸収したい」と述べ、阿部学長は「福島学院大学が自治体と協力協定を結ぶのは初めて。座学ではできない、

見て触れて学ぶと実践教育が期待できる」と話しました。村と同大学は、これまでも学生が村の保育所やいたてホームなどの福祉施設で実習するなど交流が続いていました。今後は、村と同大学が、地域の産品を使った商品開発や福祉やパソコン活用などの多岐にわたる分野で連携を密にすることとしており、来年度から連携事業を開始する予定です。



▲協定を締結した飯館村と福島学院大学

# ケーキ作りで意気投合!

12/19 青年交流事業 X'masパーティー



▲クリスマスパーティーで交流を深めた参加者ら

青年交流事業第2弾「X'masパーティー」が村公民館及び「やすらぎ」で行なわれ、村内外から17人が参加しました。この日は、初参加者もあり、初めのうちは会話もぎこちない雰囲気だったものの、ケーキづくりで次第にうちとけ、その後の「やすらぎ」での交流ゲームやプレゼント交換は大いに盛り上がり、パーティーは深夜まで続きました。「手づくりケーキのスポンジがうまく膨らまなかったりとハプニングもあったけれど、一緒に作るのが楽しくて、みんなとすぐに仲良くなれた。また、みんなで集まる機会があるとうれしい」と笑顔を見せた参加者らは、旧来の友人のように楽しいひと時を過ごしていました。

## 「思いやり」ともつたいない」

全国唯一の村営の本屋「ほんの森 いたて」が開店したが、平成7年2月26日でした。公民館長時代、「本屋も図書館も無い町村に本屋を」という国の事業に手をあげて、スタートしてから早いもので15年が経ちます。

この15年の間、本屋に足を運んだ方は約17万人、買っていただいた本は約26万冊、その売り上げは約2億3000万円となります。びつくりする数字でした。

「村の子どもたちに、できるだけ文字や本に親しむ機会を」との目的は、少なからず達成しつつあると言っても良いのではないのでしょうか。

15周年記念事業として、「手紙」という本の感想文コンクールを実施しました。目を潤ませながらの審査でしたが、76歳の方から「この手紙は、自分の母から届いたような気がして、何度も何度も読み返しました」との感想文も。また、11歳の子

もからは、「自分のおじいちゃん、おばあちゃんも、私は最後までやさしく見守りたいと思います」とのうれしい文も。「読むほどに心の琴線に触れます」「読者の心を潤す」「私の心のポストにも、手紙が届きました」などの声もありました。「まてい」には、「もつたいない」という意味があり、今風に言えば「資源を大切に」でありましょう。そして、もう一つは、相手を「気づかう 思いやる お互い様の気持ち」だと思えます。

この「手紙」の感想文は、まさに「思いやりの玉手箱」と言って良いでしょう。また、「まてい」が深まり、広まったと言っ

一つ目のまていの意味、「もつたいない」の方も、今回、国の事業に手をあげ、建設が進んでいます。その「地球環境にやさしい住宅」の上棟式が、偶然にも本屋の15周年記念事業の日と同じ12月12日大安の日に行われました。このエコハウスも、いずれ10周年、15周年の日がやってくるでしょう。

その時、必ずや「あの時、建てておいて良かったね」と言われるようにしなければなりませんと強く思いました。

平成21年12月14日  
 飯館村長 菅野 典雄